

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																										
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校		平成6年3月30日	松浦 朗人		〒430-0928 静岡県浜松市中区板屋町101-8 (電話) 053-455-4554																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																										
学校法人名古屋大原学園		昭和57年9月28日	富樫 幸信		〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅三丁目20番8号 (電話) 052-582-7733																										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																									
商業実務	専門課程(商業実務関係)	ホテル・ブライダル科(ブライダルコース)			平成25年1月29日 文部科学省告示第三号	—																									
学科の目的	ホテル・ブライダル業界等への就職を目標に、実務上必要とされるレストランサービス技能やブライダル業界で必要な技能を身に付け、HRS技能検定・ホテル実務技能試験・ブライダルコーディネイト技能検定等の資格を取得し、併せてホテル・ブライダル業務全般の知識を身に付けることを目的とする。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
	2年 昼間	1800時間	840時間		960時間		単位時間																								
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
70人		44人	0人	3人	0人	3人																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席状況・授業態度・期末試験・検定試験等の結果により、優・良・可・不可の成績評価を行う。																										
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月28日～8月20日 ■冬季:12月1日～1月8日 ■学年末:3月12日～3月31日			卒業・進級条件	卒業(進級)審査会において出席状況・履修科目評価・資格取得状況・学納金納付状況等を総合的に勘案して決定する。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席日数に応じ面接実施および保護者と綿密に連携する。			課外活動	■課外活動の種類 浜松市主催の国際行事ボランティアに積極的参加。 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ホテル・ブライダル業界・接客サービス業			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																										
	■就職指導内容 ホテル・ブライダル業界・接客サービス業内定に向けた人格形成および取得資格を活かすための就職活動の推奨。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レストランサービス技能検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ホテル実務技能認定試験 初級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>ホテル実務技能認定試験 上級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルコーディネイト技能検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>AWP検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	レストランサービス技能検定	③	12人	11人	ホテル実務技能認定試験 初級	③	12人	12人	ホテル実務技能認定試験 上級	③	12人	12人	ブライダルコーディネイト技能検定	③	12人	12人	AWP検定	③	12人	12人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																										
	レストランサービス技能検定	③	12人		11人																										
	ホテル実務技能認定試験 初級	③	12人		12人																										
	ホテル実務技能認定試験 上級	③	12人		12人																										
	ブライダルコーディネイト技能検定	③	12人		12人																										
	AWP検定	③	12人		12人																										
■卒業者数	:	12人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																												
■就職希望者数	:	12人	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																												
■就職者数	:	12人																													
■就職率	:	100%																													
■卒業者に占める就職者の割合	:	100%																													
■その他 ・進学者数:	:	0人																													
(令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																															
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和2年4月1日時点において、在学者42名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者39名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更として就職希望のため。 ■中退防止・中退者支援のための取組 進路変更希望者には本人と保護者、担任、部長(または校長)を交えて面談を行い、本人の進路希望を聞き取り、保護者の方針や本人の適正等について話し合う場を設けている。また経済的理由による退学希望者には学生支援機構や提携ローンを紹介するなど学生支援を行っている。			■中退率 7.1%																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・検定および経歴による授業料等減免制度あり。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 ・令和2年度の給付実績者数0名																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.ohara.ac.jp/hamamatu/itb/bri.html">https://www.ohara.ac.jp/hamamatu/itb/bri.html</a>																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グローバル化の進展や各国の経済成長に伴い、今後、外国人旅行者の増加が見込まれるため、ホテル業界はホスピタリティを発揮できるホテル業務全般に精通した有用な人材を求めている。業務に従事する上で必須とされるホテル関連分野の専門技術とそれを裏付ける専門的な知識を習得させると共に、企業等との連携を図り、インターンシップを通してホテル実務を身に付けた有用な人材を育成していきたい。教育課程の編成にあたっては企業等との連携は不可欠で、業界の動向を踏まえつつ、企業等からの要望・意見を取り入れながら一層充実したものとするなど教育の質の向上・維持に努めていきたい。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学園の組織上、個別委員会の1つとして位置づけられ、学校教職員(校長含む)のほか、専攻分野の企業等の役職員で構成されている。年2回実施の教育課程編成委員会では、学科の新設・廃止、現行授業科目の見直しや授業方法の改善などの議論を行い、委員会からの提案をもとに校長・ホテルブライダル職員によりカリキュラムの改善等を検討し、学校として決定し、理事会・評議委員会の承認を得て次年度カリキュラムに反映していくこととする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
小川 英雄	静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合 専務理事	令和3年7月1日 ～令和5年6月30日(2年)	①
豊田 博一	遠鉄観光開発株式会社 ホテルコンコルド浜松	令和2年2月1日 ～令和4年1月31日(2年)	③
濱本 久仁貴	株式会社スティルアン	令和1年11月1日 ～令和3年10月31日(2年)	③
吉田 孝行	株式会社それいゆ 代表取締役社長	令和1年11月1日 ～令和3年10月31日(2年)	③
松井 恵理	ネイルサロン&クラフトスクール Eric	令和1年11月1日 ～令和3年10月31日(2年)	③
松浦 朗人	学校法人名古屋大原学園 大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校 校長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	
山本 薫	学校法人名古屋大原学園 大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校 部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会規程第5条に従い、年2回の開催とする。開催にあたっては、委員長が招集し、書面により各委員に通知することとしている。

(開催日時)

第1回 令和3年7月15日 16:00～17:00

第2回 令和4年1月 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

令和2年度教育課程編成委員会を第1回目:令和2年7月30日、令和3年1月22日に開催した。今年度のコロナ禍における学校教育の対応を主に説明した。自宅で授業を受けるリモート授業対応や時差登校による学生への安全対策など、新しいコロナ禍での学校生活、新しい生活スタイルの実施について確認した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

入学後、約3ヶ月でレストランサービスの基本を身に付けさせ、その後1ヶ月間、リゾートホテルでの実習をホテル・ブライダル科の全学生に義務付けている。ホテルの寮に宿泊して、レストランサービスを主とした接客サービスを行うものである。ホテル管理部門における導入教育終了後、各部署に配属され、実際にお客様に対して、おもてなしサービスを体験することにより、インターンシップ終了後は学生の仕事に向き合う意識が大きく変わり、その成長ぶりが目立つようになる。その後の学生生活の充実度合、学生の職業観の変化等、学生が大きく成長していく様子がうかがえる。受け身の姿勢から主体的行動へ、学生の意識改革と職場理解を深めるうえでこのインターンシップ研修は有意義であり、学園としてもホテル側と綿密な打ち合わせの下、引き続き、積極的に取り組んでいく方針である。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

インターンシップ研修終了後は各企業より学生個別の評価シートをいただき、個別に指導を行っている。企業における実習・演習を通して学生の成長に繋がるように企業と連携して実施していく。  
(評価シート連携企業：<ホテル>リゾートトラスト株式会社/株式会社オークラアクティシティホテル浜松/ホテルマネジメントインターナショナル株式会社グランドホテル浜松/遠鉄観光開発株式会社ホテルコンコルド浜松/森トラスト株式会社:ラフォーレ修善寺など<ブライダル>株式会社出雲殿/株式会社スティルアンなど)  
また、校内実習では、実習ごとに担当講師が成績をつけている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ研修 I / II	机上での学習後の実践力を養うため実際の社会現場にて通用する力を身に付ける。	リゾートトラスト株式会社 森トラスト株式会社:ラフォーレ修善寺など
ブライダルアート	現場で働く最前線の方からの講習により、業界内の更なる知識を身に付ける。	ネイルサロン&クラフトスクール Eric/株式会社それいゆ
料飲実務	現場で働く最前線の方からの講習により、業界内の更なる知識を身に付ける。	Bar Savigny
ブライダル実習 I / II	挙式から披露宴までのトータル実践学習によりレベルの高い接客対応能力の習得ができる。	株式会社出雲殿/株式会社スティルアン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の『教育研修支援規程』第2条(教職員の義務等)に、「学園の教職員は、所属部署に関わらず、就業規則第39条(教育)の規程により、学園が必要と認める教育又は研修を受けなければならない。」(抜粋)と規定されており、この規程に基づき、教員が担当する分野の実務研修や学生への指導力向上のための研修を毎年継続的に受講させる方針である。さらに計画的実施のために、長期休暇(夏季休暇・冬期休暇など)を中心に職員が受講可能な研修をプログラム化し、研修に参加しやすい環境作りを心掛ける。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

ホテルおよびブライダル系の企業と連携して、専攻分野における実務に関する研修を計画していた。新型コロナウイルスにより計画していた実習のうち、1年次夏に実施予定のリゾートホテルインターンシップは実施ができなかった。教員研修等の実績としては、ブライダル実習において担当職員が株式会社出雲殿にて6月~7月、株式会社スティルアンにて1月から2月に、学生の実習前に企業の方から直接指導を受けることにより、学生実習を滞りなく遂行すると共に実務経験を積むことができた。さらに、11月には、ホテル・ブライダル職員が、森トラスト株式会社のラフォーレ修善寺ホテル施設担当者から現場の実情の話を伺う機会を設けた。

②指導力の修得・向上のための研修等

教育指導研修として、部署や専攻分野における実務に関する研修を実施した。教員研修等の実績については教育指導研修を各学期終了時に実施し、指導力の修得および向上を促す研修内容を中心に学校内にて実施することで各教職員の指導力を強化する。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

ホテルおよびブライダル系の企業と連携して、専攻分野における実務に関する研修を実施する予定である。教員研修等の計画については昨年度以前の実習に基づき計画を立て、反省を踏まえて実施する。特にブライダル実習にてお世話になっている株式会社出雲殿や株式会社スティールアンなどでは、ブライダル実習などの研修内容をさらに見直し、専攻分野の実務に役立つ内容に変更を加えながら実施する予定である。インターンシップ研修でお世話になっている各ホテルにおいても研修を実施していただく予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

教育指導研修として、部署や専攻分野における実務に関する研修を実施する予定である。教員研修等の計画については教育指導研修を各学期終了時に実施し、指導力の修得および向上を促す研修内容を中心に学校内にて実施することで各教職員の指導力を強化する予定である。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価をベースにした学校関係者評価を行い、この評価結果を広くHPで公表することにより、学校法人の責務として、情報公開を積極的に推し進め、社会に開かれた専門学校を目指すことが社会貢献に寄与する第一歩であると考え。このため、学校関係者評価の実施と結果の公表を行い、今後の学校運営の改善を図っていく方針である。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(2) 学校運営	学校運営(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(3) 教育活動	教育活動(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(4) 学修成果	学修成果(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(5) 学生支援	学生支援(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(6) 教育環境	教育環境(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(8) 財務	財務(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)
(11) 国際交流	国際交流(課題、今後の改善方策、特記事項、関係者評価)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

観光・ホテル・ブライダル業界は、新型コロナによる影響を強く受けた分野であるため、職業教育等の見直しの必要性をアドバイスされた。社会変化と共に変化しなければならない「実務教育」の分野と、どのような時代でも共通して求められる普遍的な「人間力」の部分につき明確に分けた上での教育を実践していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
牛田 策啓	牛田策啓税理士事務所 所長	令和1年11月1日 ～令和3年10月31日(2年)	関係業界・卒業生
高塚 陽介	遠鉄鉄道株式会社 中遠旅行営業所 セールスチーフ	令和2年9月1日 ～令和4年8月31日(2年)	関係業界・卒業生
堀内 章伸	社会福祉法人 磐田市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐	令和3年5月1日 ～令和5年4月30日(2年)	関係業界・卒業生
寺谷 裕樹	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 法人本部 人材開発課 人事企画部次長	令和2年10月1日 ～令和4年9月30日(2年)	関係業界
空屋 英夫	浜松商工会議所 産業振興部 部長	令和1年11月1日 ～令和3年10月31日(2年)	関係団体
鈴木 基生	田町パークビル株式会社 代表取締役	令和年11月1日 ～令和3年10月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和3年7月31日

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

[http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment\\_h\\_itb.pdf](http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment_h_itb.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校法人として、企業等、社会に向けた情報公開を行うことは、当校に限らず、広く「専門学校」を理解いただくためにも重要であることを認識し、財務情報の公開も含め、ガイドラインにある項目全般にわたって積極的な公開を行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、教育目標(教育目標、特色等、所在地、連絡先、学校の沿革)
(2) 各学科等の教育	各学科の教育(教育目標、修業年限、募集定員、入学者数、取得目標)
(3) 教職員	学校の概要、教育目標(校長名、教員数)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育(キャリア教育、就職支援等)
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境(学校行事、課外活動)
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援(生活支援、資格取得)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援(学生納付金、就学支援)
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	特になし
(11) その他	特になし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページに掲載

[http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment\\_info\\_h\\_itb.pdf](http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment_info_h_itb.pdf)

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ホテル・ブライダル学科(ブライダルコース)) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			宿泊理論	ホテルの宿泊部門についての学習	1前期	60		○			○		○		
○			料飲理論	ホテルの料飲部門についての学習	1前期	60		○			○		○		
○			サービス接遇Ⅰ	サービス接遇検定2・3級を目標としたサービス接遇の際の言葉遣いや適切な対応の仕方などを学習	1前期	30		○			○		○		
○			サービス接遇Ⅱ	サービス接遇検定準1級を目標としたサービス接遇の際の言葉遣いや適切な対応の仕方などを学習	2前期	30		○			○		○		
○			ブライダル概論	ブライダルの全般的な知識の学習	1前期	30		○			○		○		
○			ブライダルプロデュースⅠ	ブライダルプランニングを中心とした基礎学習	1後期	30		○			○		○		
○			ブライダルプロデュースⅡ	ブライダルプランニングを中心とした発展学習	2後期	60		○			○		○		
○			ブライダル実習Ⅰ	ブライダル挙式・披露宴までの基礎実習	2前期	120		○		○	○	○	○		○
○			ブライダル実習Ⅱ	ブライダル挙式・披露宴までの発展学習	2後期	120		○		○	○	○	○		○
○			ホスピタティ	分野ごとに必要とされる心からのおもてなしを実践するための学習	1前後期	30		○			○	○			○
○			ブライダル実務Ⅰ	ブライダル実務の基礎学習やブライダル接客のロールプレイング	1後期	30		○			○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ホテル・ブライダル学科(ブライダルコース)) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ブライダル実務Ⅱ	フォーマルスペシャリスト検定やテーブルコーディネート実習を通してブライダルの実務学習	2前期	30		○			○		○		
○			ブライダルアート	ブライダルネイルや装花などの学習	2前期	30				○	○				○
○			レストランサービス士Ⅰ	レストランサービス技能検定筆記対策学習	2前期	90		○			○		○		
○			レストランサービス士Ⅱ	レストランサービス技能検定実技対策学習	2後期	30				○	○		○		
○			サービス・トレーニング	マナー・プロトコール検定を通してビジネスマナー・テーブルマナー・国際儀礼の学習	1後期	30		○			○		○		
○			インターンシップ研修Ⅰ	リゾートホテル・シティホテル・ブライダル企業にて実践学習	1前期	150				○		○			○
○			プレゼンテーション	企画立案してプレゼンテーションの学習	1前期	30				○	○		○		
○			料飲実務	料飲部門の基礎及び発展学習	2前期	30				○	○				○
○			ブライダルコーディネーター	ブライダルコーディネーター技能検定を中心とした学習	1後期	30		○			○		○		
○			カラーコーディネーター	色彩検定を中心とした色の基礎学習	2前期	60		○			○		○		
○			ビジネス実習Ⅰ	社会人としての基礎知識学習	1前後期	120		○		○	○	○	○		

## 授業科目等の概要

(商業実務専門課程ホテル・ブライダル学科(ブライダルコース)) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネス実習Ⅱ	社会人としての発展知識学習	2 前後期	120		○		○	○	○			
○			コンピューター技能Ⅰ	Word検定を中心としたPC学習	1 前期	60		○			○		○		
○			コンピューター技能Ⅱ	Excel検定を中心としたPC学習	2 前期	60		○			○		○		
○			英会話Ⅰ	英語の基礎学習	1 前後期	30		○			○			○	
○			英会話Ⅱ	英語の発展学習	2 前後期	30		○			○			○	
○			就職Ⅰ	就職活動の基礎学習	1 後期	150		○			○		○		
○			就職Ⅱ	就職活動の発展学習	2 前期	30		○			○		○		
	○		インターンシップ研修Ⅱ	リゾートホテル・シティホテル・ブライダル企業にて実践学習	1 後期	90				○		○		○	
	○		海外留学	海外留学のための準備学習と海外体験	1 後期	90		○		○	○	○		○	
合計					31科目	1800単位時間(					62単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。